

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「心と心を繋ぎともに生きる」を理念に掲げ、共有と実践のためにカンファレンス等で具体例を示しながら、理念を実践するために、わかりやすく説明する様になっている。	理念を共有して、実践のための基本方針を掲げ、さらに行動指針を作成しています。カンファレンスでは具体例を出して、利用者の気持ちや、どう関わればよいか話し合いを持っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	入居者と一緒に、地域の店へ買い物に出かけている。行きつけの理美容店があれば、外出の機会をご家族と連絡し合いながら支援したり、施設にも地域の理美容業者に定期的に来ていただいたりしている。	近くにある足湯への散歩や買い物、またご家族の支援でいきつけの理美容院に出かけています。今年度はハンドマッサージ等の定期訪問や演芸のボランティア、中学生のサマーチャレンジの訪問等、地域との交流の幅が広がっています。	以前に比べて地域との交流の機会は多くなってきています。昨年度は社協と協賛で「花いっぱいプロジェクト」が実施されました。こうした地域住民とつながりを持ち、交流できる活動をさらに期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に向けた事業所自体の活動が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	令和6年2月7日より対面での会議を実施。前回までの会議では、ご家族は代表者様へ出席を依頼させていただいたが、今年度2回目からの開催では、全入居者のご家族へ案内を送付予定。	今年2回目の11月の会議には、全入居者のご家族に出欠席の案内を送り、三組のご家族様が参加されています。会議では、利用者の様子や運営状況、事故や苦情等を報告されています。消防署や自治会役員、民生児童委員が参加され、事業所への理解を深めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域開催の会議への参加を行っている。(福祉と医療の連携会議・福祉計画策定委員会)	村の福祉と介護の連携会議に出席し、管理者が福祉計画策定委員に選任されています。運営推進会議には、村担当課長や地域包括支援センターの方の出席があり、意見や助言をもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	富士見高原医療福祉センター介護事業全体の取り組みの中、事業部、事業所での毎月の委員会開催や、インターネットを利用した勉強会への参加を行っている。	ユニット玄関は地域交流スペースにつながっている為、感染症対策で施錠しています。年2回、身体拘束や虐待防止についての研修を実施しています。スピーチロックにつながる言葉には、職員同士の気づきを大事にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	富士見高原医療福祉センター介護事業全体の取り組みの中、事業部、事業所での毎月の委員会開催やインターネットを利用した勉強会への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について学ぶ機会が作られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については内容をご理解・ご納得いただけるよう説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	物品購入の相談時や、受診、散髪への外出時の機会に、コミュニケーションを図っている。また今年度より運営推進会議への参加を全入居者ご家族へ案内し、会議の中でも意見、要望を聞き取りしていく。	利用者からのリクエストメニュー聞き取りで、カップラーメンの希望があったので提供しましたが、普段は咽たりする方が完食されました。ご家族とは普段の連絡や面会等の機会に話を伺っています。運営推進会議への参加を依頼し、より積極的に意見や要望を聞く機会を持つようにし、毎月の活動の様子を、写真を多く入れて報告しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	気づきノートやチーム会からの意見集約、リーダー会にて提案事項等を検討している。また、今年度より全職員対象とし、施設サービスの見直しの委員会を発足していく。	職員が自由に記入する「気づきノート」やチーム会から意見集約し、リーダー会にて検討しています。また今年、職員の意識統一等を目的に立ち上げた「あり方委員会」でアンケートを実施している最中です。	「あり方委員会」のアンケート結果の集約・整理をされ、それを踏まえて話し合いがなされ、より質の高いケアにつながることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準や労働条件の整備については自施設では行っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	富士見高原医療福祉センター介護事業全体の取り組みの中、介護事業部主催の研修会参加促しやキャリアラダーに沿った、インターネットを利用した勉強会への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域開催の会議への参加を行っている(福祉と医療の連携会議・福祉計画策定委員会)。管理者だけでなく、他職員が交流できる機会作りができてない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご家族や、利用されているサービスの担当者からの情報収集が主で、ご本人からじっくりと話を聞けずにサービスが開始となっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入段階でも家族から話を聞いたり、その後も電話等で話を聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には、グループホームへの申し込みを検討されているケースがほとんどであるが、入居希望されている方の状況によっては、他の施設利用をケアマネに勧めるケースはあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	カンファレンス等で入居者への理解を深めていくことに努めているが、一方的な介護となってしまう場面もある。グループホーム、認知症の施設内研修を実施し、職員の知識を深める取り組みをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に家族との連絡を取ったり、面会の機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昨年度より面会規制を徐々に緩和し、施設内で、ご家族やお知り合いの方との交流は徐々に増えてきている。また引き続き理美容の外出や、礼拝への外出支援を行っている。	面会規制が緩和し、ご家族は居室内で面会となっています。知人等の面会には、家族の承諾を得ています。馴染みの理美容室や地元のスーパーへの外出、季節の花見など馴染みの場へ行く機会を持っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食後の食器の片付けや洗濯などの作業を、一緒に行って頂いたり、お風呂に誘ってみたりしている。関係性の変化にも配慮し、食事席などの環境設定に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後、同グループ内の施設に入居された方であったが、退去後、担当職員への情報伝達や様子を見に行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式から、ほのぼの記録システムでのアセスメントへ移行中。カンファレンス時に、本人本位の点について重点的に話している。	センター方式を活用しています。利用者の思いや伝えたい事、希望や意向を把握するように努めています。利用者が伝えられないときは、家族に聞いたり、様子や表情で把握しています。言葉を拾いとる、それを記録することが充分に出来ていないとの管理者のお話でした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みの食べ物や好きだったもの等、家族へ依頼し、環境を整えていくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	リハビリ職員からの指導、またカンファレンス時に一人ひとりの状態を共有しながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンス時、職員や他職種の視点や意見を踏まえながら意見交換を行い、計画と支援が離れないよう努めている。	担当職員やケアマネージャーを中心に、本人や家族の意向、現状を踏まえた課題分析を行い、介護計画を立てています。施設看護師や系列の理学療法士の視点も生かされ、さらにユニット毎のカンファレンスで検討されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録システムやカンファレンス用紙を活用しながら、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	関係施設リハビリ職員からのアドバイスにてケアへ繋げたり、グループホームでの生活が難しく思われる方へは、本人や家族と話し合い、他サービスを検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の店に買い物や、季節によっては散歩に出かけたりと活動している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族支援のもと、かかりつけ医の受診や往診を継続している。	本人、家族の意向により、かかりつけ医の受診や協力医療機関の往診が行われています。かかりつけ医への受診はご家族が対応し、その際は看護師から普段のバイタル等や様子の変化を伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の変化や気づきは施設看護師へ情報共有を行い、往診や受診時につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との連絡や、状態を見に訪問したりしながら情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	身体介護量が増加したときなど、必要時には特養への申し込みを促し、グループホーム本来の認知症ケアが出来るよう配慮している。	看取りの指針があり、入所時に本人・家族に説明しています。医療依存度が高くなった、または身体介護量が増加して2人介助が必要になった場合は、特養等への申し込みを促しています。看取りの研修も予定され、職員が経験を重ね、また振り返りを行いたいと管理者からお聞きしました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事業部内で開催しているBLS(心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置)研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回小規模多機能型居宅介護と共同で、避難訓練を開催している。	年2回小規模多機能型居宅介護と共同で避難訓練を実施しています。7月の訓練では夜間に地震と火災を想定し、時間の告知をせずに行いました。消防署への通報訓練や設備業者の設備点検も実施し、マニュアルが整備されているので、職員も慌てずに動けたとの事でした。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	管理者やケアマネを中心に、職員への教育に努めている。	理念の基本指針の中の一つに、『介護は言葉だよ』と掲げています。思わずスピーチロクしている時には、利用者の思いは何か？その行動は何故か？管理者中心に話し合われていて、その内容によりさらに研修会を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	グループホーム、ユニットケア、認知症の施設内研修を行い、入居者様が自己決定できることの大切さを学ぶ機会を設けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	現在のサービスは職員の業務に沿ったサービス提供が主であるため、再度施設のサービス提供のあり方を見直す委員会を今後設置する。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	受診や外出時の身支度に配慮している。本人へ、着たい服等を選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や下膳、片付け等、出来る範囲で、利用者と一緒に頑張っている。	地元の食材を使ってユニット内で手作りし、利用者は持てる力を活かした皮むきや下膳、片付けなどを行っています。おやつは利用者のリクエストに答えた献立です。施設内の畑は、楽しい食事提供に一役かっています。家庭的な雰囲気です和やかな時間が過ぎていきます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	関連施設管理栄養士が作成したメニューを使用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアをし、それぞれ出来る範囲で行っていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のタイミングやパットの適正など、カンファレンス等で話し合い、検討をしている。	自宅にいた時からの排泄が維持できるよう情報を共有し、尊厳のある、自立を意識したケアで支援しています。自分でトイレに行かれる方は見守り、その方に沿った声がけや誘導、一人ひとりのタイミングを大切にされたケアを実践しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	内服での管理が主となり、座薬などを使用するケースもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回曜日を決めた入浴で、ご本人の希望や体調面、精神状態に合わせて曜日を変えたり、その日の中で時間を調整しながら柔軟に対応している。	広い脱衣所で明るい家庭的な個浴です。自分で移動することに不安を感じている方でも、安心して入浴を楽しんで頂けるようにリフトも整備されました。本人の希望や体調を見ながら、時間や曜日の変更も柔軟に対応されています。檜、ミント、ミカン風呂と四季を感じるように工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の状態やその時々のご要望を聴きながら、状況に合わせた支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服の説明書をファイリングし、必要時に確認しやすいように準備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主に家事作業であるが、本人の好きなことや出来ることへの支援を行うよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散髪や散歩、定期的な買い物外出を行っている。	自然豊かな景色を活かした散歩や2か月に一回の買い物、ご家族と行きつけの理美容院に行かれています。お花見や紅葉狩り、近くにある足湯や栗拾いに行かれています。拾ってきた栗は、栗ご飯を炊いて提供され、楽しみが増えています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	貴重品や金銭の管理は施設で行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要時には施設の電話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	好きな所で過ごせるように環境設定の配慮に努めている。本人に合わせた高さの椅子を使用している。	ユニット内には本人に合わせた椅子やソファが置かれ、好きな場所で好きなテレビを見ながら過ごせる空間があります。ドアを開ければテラスがあり、隣のユニットと繋がっていて交流の場となっています。台所は広く明るい対面式で、職員と顔を見て話しながら作業ができ、落ち着いた環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング席は入居者同士の関係性や、その時々でレイアウトを変更したり、居室やリビング奥ソファで一人で過ごせる環境もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や寝具等は今まで使用されていたものを持参いただき、引き続き活用している。	備え付けの家具の他に、今まで使用していた物を家から持参して頂けるように推奨しています。テレビやラジオ、自由に好きな飲み物が飲めるように湯沸かしポットを置かれるなど、自分らしい居心地の良い暮らしの工夫に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレの扉の色分けをしたり、危険な物は近くに置かないようにしたり、安全に生活が送れるよう配慮している。		